

Kyoto Hollywood News 京都ハリウッド通信

人気伝奇コミック京都で完全ドラマ化! 「陰陽師安倍晴明〜王都妖奇譚〜」

記者発表で一葉。陣内は穏やかな表情から一変、劇中では長い髪を乱して眼光鋭い橘影連（たちばなのかげつら）を迫力満点に演じている



晴明ブームも頂点の最中、まさに決定版とも言えるドラマがフジテレビで放映中の「安倍晴明〜王都妖奇譚〜」（毎週火曜夜7時59分より放映。プリンセスコミック「京都妖奇譚」（原作/岩崎陽子）を松竹京都映画撮影所のスタッフが映像化。演出を「京極夏彦・怪」を監督した酒井信行らが担当）



晴明（三上博史）と将之（保坂尚輝）は都を襲う妖魔と闘う。晴明の兄弟子・影連（陣内孝則）は鬼と化し都に災厄をもたらす

今回、晴明様を演じるのは故・寺山修司主宰の劇団「天井桟敷」出身、三上博史。「人と違ふ」事をコンプレックスに思ひ、予見した災厄を避けられない事でも

「怪談幽霊新聞」

シリーズ続報は「怪談幽霊新聞」。総務課の主任と情婦のOLが横領の罪を地味なOLに着せて殺害。その死に顔に被さった新聞が、無念の死に顔を取り、「顔面新聞」となつて復讐するという物語。今回三輪ひとみ嬢が演じるのは三層一間の安アパートに住む、コロッケを貰う事だけが唯一の楽しみで身寄りもなく、ついに殺害される哀れなOL。殺風景な部屋の片隅でコロッケひとつだけをおかずに黙々と食事をする場面は本作の中でも屈指の名場面。ちなみにコロッケ、今時珍しく肉屋さんが注文に応じて揚げしてくれる品で、大塚通り商店街の太宰庵1ケツ内の肉屋でお求めになれる。太宰庵本作を含む「妖奇怪談全集」4本がよいよ劇場公開。身も凍る怪談が大画面では非「堪能頂きたい。



今回も無残に殺害された三輪ひとみ嬢。尚、公開前日とも三輪ひとみ嬢ら関係者のトークショーあり。近々名古屋と福岡でも上映予定

これが恐怖の顔面新聞！大阪はジャンル（06-6636-7444）にて8月15日、東京はBOX東中野（03-5389-6780）にて8月24日公開決定

恐怖！顔面新聞が呪ひ殺す!! 三輪ひとみ主演

「怪談幽霊新聞」シリーズ続報は「怪談幽霊新聞」。総務課の主任と情婦のOLが横領の罪を地味なOLに着せて殺害。その死に顔に被さった新聞が、無念の死に顔を取り、「顔面新聞」となつて復讐するという物語。今回三輪ひとみ嬢が演じるのは三層一間の安アパートに住む、コロッケを貰う事だけが唯一の楽しみで身寄りもなく、ついに殺害される哀れなOL。殺風景な部屋の片隅でコロッケひとつだけをおかずに黙々と食事をする場面は本作の中でも屈指の名場面。ちなみにコロッケ、今時珍しく肉屋さんが注文に応じて揚げしてくれる品で、大塚通り商店街の太宰庵1ケツ内の肉屋でお求めになれる。太宰庵本作を含む「妖奇怪談全集」4本がよいよ劇場公開。身も凍る怪談が大画面では非「堪能頂きたい。



同時視聴率トップを独走！マリコ（沢口靖子）が京都府警に戻って来た秘密とは何か？

この夏は怪談が大ブーム!

「月9」風味「怪談百物語」

最近「ブー」という呼び方が定着したが、やっぱり日本の夏は「怪談」。そう呼ぶ方が定着したが、小生の「妖奇怪談全集」公開と期を同じくしてフジテレビが日本の名作怪談10本をドラマ化した「怪談百物語」の放映を8月13日午後7時59分より開始。「月9」のフジらしく、キャストラインナップ豪華。まずは竹中直人が陰陽師として全作を通じて出演し、ストーリーテラー的な役割を演じる。その上で、菅野



大好評シリーズ第4弾! 沢口靖子「科捜研の女」

トピックス

「ほんく」設置費
文藝春秋漫画賞「ほんく」(作/西村理恵子)が映画化。東京京都撮影所を拠点に去る月初旬に舞鶴市内でその口を閉じた。主演は銀河ありで、その出演者は映画初出演の鹿嶋、真木蔵人、今田朝陽、笑福亭松之助ら。監督は「新・仁義なき戦い」の阪本順治。

5代目貞門は石見津久門
4代目貞門・石坂浩一が直腸がんて手術を受け、遂に決まった「水戸黄門」では、予定されていた石坂脚本・監督の話も流れ、残念な結果となった。5代目貞門の出演は難航の末、里見浩太朗に決定。里見は71年の第3部から88年の第7部まで助さん役を演じていたが、かねてからいつかは黄門役を志願しており、ついに待望の役を射止めた。5代目貞門は10月よりスタートする第3部より登場。

テレビ朝、今年は忠臣蔵
毎年恒例のテレビ朝新春長時間「忠臣蔵」が今年も放送される。決定した。今夏より松竹京都映画撮影所が撮影に投入。キャストは現役陣では未定だが、昨年フジテレビが木村拓哉主演で放映した「忠臣蔵」が30%近い視聴率をマークした後とあって、斬新なキャストラインナップが期待される。

今月の言葉

責任編集人 山田誠二

1963年生まれ。京都を拠点に、映画のプロデューサー、脚本、評論の他、コミック原作など多方面で活躍の作家。映画関連著作多数執筆。

小生が脚本・監督の「妖奇怪談全集」が本文中にもある様に、いよいよ劇場公開。苦勞の甲斐あって出来栄も上々。マスコミの注目も高く、「ダヴィンチ」誌上で三輪ひとみ嬢との対談を始め、取材の申し込みを多数受ける事に。普段は取材する側なので、各誌の記者さんに取材されるのは何とも奇妙な気分。

2002年8月1日 山田誠二